

座間支援学校 学校運営協議会 議事録		開催日	令和7年10月28日(火)			
会議名	令和7年度 県立座間支援学校 第2回学校運営協議会					
開催方法	・書面 ・Teams ・散開 •集合 •その他()					
時間	開始時間	9:45	終了時間	11:50		
場所	会議室		参加人数	委員7名 教職員12名		
<p>1 校長あいさつ</p> <p>・お忙しい中第2回学校運営協議会にご参加いただき感謝する。今年度後半に入り、2学期は各学部の宿泊学習・修学旅行等が目白押しである。大きな混乱なく順調に進んでいる。本日は各部会、学校の取り組みを報告する。また、今回は子どもたちの学習の様子を実際に見ていただく。高等部は校内・現場実習で作業を中心とした学習が始まっている。卒業後を見据えた活動を意識して行っている。参観後感想をいただければと思う。本日もよろしくお願ひします。</p>						
<p>2 会長あいさつ</p> <p>・お忙しい中お集まりいただき感謝する。自身は10月に大分、広島にて子どもの発達に関する学びを深めてきた。スウェーデンの講師から数年前から学び続けており、「動くことは学ぶこと」をコンセプトに電動移動機器を重症心身障害児も操作できることを目指し研究している。重症心身障害児も理解力がある。自身の学びを座間支援学校にも還元できればと思っている。今回の学校運営協議会でも子どもたちが生き生きできる社会づくりを皆さんと考えていきたい。よろしくお願ひします。</p>						
<p>3 部会活動報告</p> <p>○切れ目ない支援部会より(連携支援G.L.)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からインクルーシブ教育の推進をめざし、横のつながりを意識した取り組みを話題としてきた。 ・昨年度は広くインクルーシブ教育について委員に語っていただいたが、今年度は「半径3メートル」の身近なところでできるインクルーシブをテーマとしている。 ・第1回では、まず教頭より「かながわのインクルーシブ教育」について説明し、インクルーシブ教育推進課作成のパンフレット「インクルーシブってなんだろう?」の内容を委員と共有した。 ・前半はテーマをもとに全体で協議をした。半径3メートル内というテーマから、家族や兄弟、友人などを想像される方が多かった。それぞれ育ち過ごしてきた背景がある、互いに知らないことがあって当然、それぞれの普通がある、みんなとの違いがある、みんなと一緒にいいなどの発言が出された。 ・後半は全体協議の内容も踏まえ、2グループに分かれて協議を行った。そこでは、「良い」「悪い」ではなく「どう思ったか」を大事にしたい、特性という言葉もあるが人は大なり小なり持っているといった発言から「お互いに知り合うことが大事」ということや、枠があることの難しさもある、双方向の関係性を大事にしたい、安心して過ごせる場所、複数の居心地の良さといった発言から「一緒にいる人が認め合う関係性」というキーワードがあがった。 ・第2回は、有馬高校の部屋をお借りして開催する。高校の中にあるからこそその分教室の取り組みを紹介 						

し、校内見学していただきながら、議論を深めていければよいと考えている。

○防災部会より（環境安全GL）

- ・ねらいは「地域における防災上の課題に向けて役割を確認し、地域一体となった防災体制を構築する」である。
- ・設置理由は一点目に小学校、高等学校、支援学校が隣接していること、二点目に地域的な防災課題が共通していること、三点目に大規模災害発生時は学校・地域・市が連携して対応する必要があることである。
- ・構成員は座間市危機管理課防災計画係長、座間市地域福祉課地域福祉係長、座間市消防本部総務課長補佐・警防課地域消防係長、ざま災害ボランティアネットワーク代表、皆原南自治会長、座間高校副校長、入谷小学校教頭、本校副校長、環境安全グループリーダー、防災防犯班長である。
- ・第1回では、まず令和5年度、令和6年度の部会で扱った内容を報告した。
- ・次に、昨年度の取り組みから地盤の脆弱さに対する被害想定を踏まえ、予想される被害への対応として本校の準備状況について報告した。一点目に上下階への車いす避難（垂直避難）のために階段の手すりを撤去した。二点目に液状化して泥沼化した地面を車いすで避難できるよう、コンパネ等耐久性のある板で養生する準備を進めている。三点目に下水管の破損等でトイレが利用できない可能性があるため、簡易トイレの準備を進めている。四点目に保護者の引き渡すまで児童・生徒が校内で過ごすための備蓄食料、備蓄飲料水の確保や自家発電機の増補等を進めている。
- ・また、今年度の重点目標にも示されている「児童・生徒の防災意識を高める取組」に向けた手立てや方策について、委員より「AR機材を活用した防災教育授業」「倉庫にある備蓄物品や食料の確認」「座間市消防署による消防訓練」「地域の消防団にポンプ車を出していただく」など複数のご意見をいただいた。いただいた意見を踏まえ、2学期より取り組みを進めている。
- ・今後も部会で意見をいただきながら進めていきたい。

○意見交換（進行 会長）

- ・(委員)切れ目ない支援部会の報告の中にあった「枠があることの難しさもある」とは具体的にはどういうことか。
- ・(連携支援GL)学校の時間割に沿った活動や集団授業の中に入れない、という難しさがあるというような話があった。
- ・(委員)インクルーシブ教育について、漠然としていてなかなか理解できない。特に学校内の範囲を超えたという点では地域との関係性という意味があると思うが、自分がどう携わっていけるか、学びながら模索しているところである。
- ・(委員)インクルーシブってこういうことかな、と個々が理解できればよいのではないかと考えている。
- ・(委員)防災部会の「児童・生徒の防災意識を高める取組」のうち、倉庫にある備蓄物品や食料の確認について、教員も知らないことが多いので確認したらよいと考える。自身が勤務した学校では、座間市の消防に来校してもらい、煙体験や力のいらない物品の運搬方法などを実施していただいた。
- ・(委員)防災部会について、具体的な課題があげられ、具体的な意見が出されていると感じた。自身も委員として参加している切れ目ない支援部会では、「こういうこともインクルーシブなんだ」という気づきやいろんな人の価値観を知ることができた。参加していて思うのは「ひとつの結論を出さなければいけ

ないということではない」ということ。部会で行っている取組を広げるということは難しいのかもしれないが、この部会にいろいろな方に携わっていただきたいと思う。

- ・(委員)切れ目ない支援部会の報告を聞き、自校を振り返ったときに、インクルーシブ教育についてそれぞれの教員がどう考えているのかを聞く機会がないと思った。隣接する良さを生かし、座間支援学校とも連携してインクルーシブ教育の取り組みをすすめていきたい。
- ・(委員)自身は親子で座間支援学校の隣の学校で学んだ。今となり、育ちの過程で座間支援学校と交流をする中でインクルーシブについて自然と学んでいることが分かった。諸外国はインクルーシブ教育が進んでおり、地域の中に特別支援が含まれている。必要なときに特別支援を行う。子供たちがお互いに学びあっていく。重症心身障害児や自閉症の子のこういうところがすごいな、と学びあっていく。今後、外国の方も日本に多く生活するようになる。自身もいつどういう健康状態になるか分からない。しかし、自然な形でインクルーシブを構築できることは自分が困難な状況になったときに「こうすればよいのではないか」という希望につながる。世界とつながり学んだ。外国の取り組みをそのままコピーするのではなく、日本に即したインクルーシブ教育を推進できるとよい。私たちも完全ではない。依存先を増やす。できることはやり、頼れることは頼る。日本人自己肯定感が低いと言われているが、「ナイストライ」の考え方にしていく。学校に限らず安心して過ごせる先を増やす。切れ目ない支援部会でも「対話」を続けていってほしい。学校でも「対話」を大事にしてほしい。
- ・(委員)防災部会について、手すりの撤去は素晴らしい。在籍児童・生徒は体が緊張する子が多いと想定する。理学療法界でも安全な避難について考えている。防災部会でさらに「避難後」についても考えていくよのではないか。
- ・(委員)保護者の目線で発言する。防災部会について、様々な災害が想定されるなかで、対応をパターン化していく必要があるのではないか。防災部会の設置理由に「大規模災害」とあるが、今まではどうだったのか。今までがあり今後を検討するものではないか。全体的に「防災意識を高める」との報告だった。児童・生徒が防災意識を高めるために、東日本大震災の経験からもっと学ぶ必要がある。東日本大震災での各学校でのケースから、本校での事態を想定して取り組む必要がある。そのためには各児童・生徒の理解度などをふまえ検討する必要があると考えた。
- ・(委員)大変貴重な意見をいただいた。東日本大震災の経験から自身も学びたいと考えている。

4 学校評価部会

○今年度重点目標の進捗状況について（副校長）

- ・今回特に防災意識について、これまで各学部で取り組まれたことについて報告する。
- ・小学部では、具体的な体験の充実に取り組んでいる。ヘルメットや防災頭巾をかぶってみる、防災食を食べてみよう。防災毛布を使ってみようなど、低学年は、教室で揺れを体験する学習を行った。
- ・中学部では、校外学習で県総合防災センターを見学した。東日本大震災の揺れを疑似体験した。また、消火器体験や暴風体験できる施設も利用した。
- ・高等部知的障害教育部門では、生徒が中心となって防災意識を高める取組を行っている。生徒会と美術部が連携して防災意識啓発ポスターを作製・掲示した。クイズ形式など、生徒から教員も学んでいる。また、総合の授業において、学年対抗「防災グッズ獲得競争」を行った。

○意見交換

- ・(委員) 小学部の揺れ体験の反応はどうだったか。
- ・(小学部 L) かなり緊張していた。またある児童は昨年度のシェイクアウト訓練では毎回泣いていたが、だんだんと慣れてきた。揺れ体験では効果音も取り入れた。はじめは楽しい音楽を流していたが、効果音に変更したとたんに泣き出した。子どもたちは雰囲気をよく感じ取っていることがよく分かった。
- ・(委員) 雰囲気や大人の緊張感など、予測できないなかで子どもたちは不安感を持つ。効果音など雰囲気をつくるだけで、教室での疑似体験は可能と感じた。
- ・(小学部 L) 合わせて、児童への「大丈夫だよ」と安心させる教員の言葉かけも行った。
- ・(委員) 体験をさせて児童・生徒の様子を見たあと、個々に違いある中での対応マニュアルのようなものを作ったらしいのではないか。たまたま教員が離れた場合に地震がおきたらどうするかも想定し、友だち同士で声をかけあうというのも方策の一つではないか。東日本大震災の際も子ども同士で行動したというケースがあったと記憶している。ユーチューブでも様々な動画が出ているので参考にするといい。
- ・(委員) 防災センターの見学は、実際に体験できるが、肢体不自由の児童・生徒の避難支援についても並行して考えていく必要がある。
- ・(委員) シェイクアウトを毎月実施することは素晴らしい。繰り返すことで定着していく。
- ・(委員) 先生方の様々なアイディアから体験的に学ぶことに感心した。子どもたちが主体的に参加し学ぶことは日ごろからの指導の積み重ねによるものを感じる。防災以外にも日常的にそのようにかかわられているからこそと感じた。
- ・(委員) 本校でも取り組んでいけそうな内容だった。ポスターなど、教師が教えるのではなく児童・生徒同士で啓発していくことが有効。知識をもつことは安心につながるので、まずは大人から子どもへ知識を伝える。そして自助、共助、公助というように、6年間の小学校生活の中で段階的、発展的に教育できることよいと感じた。とっさのときに自分で考える判断力を育てていく必要性を感じた。
- ・(委員) 素晴らしい取り組みをされている。揺れについて過敏な子は、「経験していない」からこそ怖いので、経験をすることが非常に重要である。徐々に慣れさせていくことも素晴らしい。高等部のゲームを扱った教育について、座間高校とも一緒にできるとよいのではないか。それこそインクルーシブと感じる。

5 校内見学・授業参観

○感想

- ・(委員) 見学時、当時の教え子から声をかけてくれた。成長に驚いた。仲間に恵まれて日々過ごしているのだろうと感じた。就労支援センターでの作業を経験したことがあるが、とても大変な作業だったことを記憶している。生徒たちは周囲に支えられながら仕事に取り組んでいくことが将来の就労につながるのだろうと感じた。
- ・(委員) 小中学部を見学し、とても丁寧なかかわりのなかで経験が積み重ねられていると感じた。校内を歩いていて、子どもたちからの発信も多く感じた。当たり前に生活習慣の中で子どもたちが気づいていく環境が整えられていると感じた。作業では安定した受注の難しさや先生方のご苦労があるのではないか想像した。環境調整、環境設定し作業を積み重ねる中で、子どもたちも将来について少し想像できるのではないかと感じた。自分の強みを知る中で将来を考えて行くことができると良いと感じた。休憩時間等、作業の隙間の過ごしについても難しさがあるのではないかと推察する。人の手を介さずに自由時間を過ごせると子どもの幅が広がると感じた。

- ・(委員) 先生方が丁寧に対応されている。視覚支援等の環境設定も細やか、丁寧に指示されている。中学校でも職場体験を二日間程度行っていたが、短い期間でもありお客様のような対応になりがちだった。授業を見学して、就労を見据えプロ意識を持って取り組まれていると感じた。
- ・(委員) 貴重な機会を与えていただき感謝する。地域に住みながら校内の様子が分からぬ中で、見学ができたことは有意義だった。一対一の丁寧な対応がなされていた。授業の内容に合わせた音響の工夫もされていた。五感を使った授業がなされていると感じた。作業では、丁寧にしかも細かい作業がなされ、しかもリサイクルされるということでSDGsにつながる取組だと感じた。
- ・(委員) 昨年は自身の子どもの実習の様子を見学した。今年度は他部門の見学もできとてもよかったです。校内実習について、社会情勢から今後リサイクルは大事な業務だと感じている。生徒たちの作業内容が多岐にわたるとよいと感じる。インクルーシブについて、今後地域全体で子どもたちを育てていくという体系が確立するとよいと感じる。

○校長より

- ・一部分ではあるが校内の様子を見ていただいた。今回は本校であったが、分教室でも学習を行っている。機会があればご覧いただきたいと考える。
- ・防災について、今年度は各学部で児童・生徒の防災意識を高める授業を行う中で、主体的に能動的に活動していくことに重点をおき取り組んでいる。子どもたちが小さいころから学んできたことが積み重ねられて、今の活動に生かされていると実感している。実際の災害では防災訓練したことがそのまま起きることはまずない。主体的に考え、行動する力を身につけることが大事。実際に力が育っていると感じるのは、例えば人身事故で電車が止まってしまったときにどう対応できるか。ある生徒は家庭にも学校にも自分から電話できた。そういうときに身についている感じだ。先の見えない中で、防災教育はとても重要だと考えている。今年度の学校運営協議会はあと1回となる。次回もどうぞよろしくお願ひします。

6 事務連絡

- ・次回開催は2月の予定。

以上